

開会挨拶

小川 全夫 AABC 理事 (喜多 悦子 AABC 理事長代理)

日本は高齢化の面では、すでに世界のトップレベルに達していますが、アジアの高齢化もこれから急速に高齢化が進みます。

とりわけ韓国や中国の高齢化は、スピードといいその規模といい、日本の高齢化を追い越す勢いです。そのため、日本に視察に来る方々が増えています。

AABC (アジアン・エイジング・ビジネス・センター) では、組織を立ち上げる前から、アジアの人々が日本の高齢化に高い関心を抱いていることに着目し、日本ででの取組みを間違いなく伝えていく使命を果たそうと活動を始めました。

これから高齢化していく韓国や中国にとっては、日本は1つのモデルとなっていくでしょう。われわれはアジアの人達の今後の生活のために、これまで成し遂げてきたさまざまな努力、間違った点もあったかもしれませんが、そういった場合の修正の方法についても、きちんと伝えていかなければならないのです。

このような目的を達成するため、福岡市を拠点として、このセンターを立ち上げました。昨年3月12日に特定非営利活動法人の資格を得て、正式のNPO法人としての活動を始めたところです。

高齢化の問題といいますと、人々はすぐ要介護の方々を思い浮かべます。ただし、そういう方々は高齢者の中でも15%内外です。あとの85%の方々は、まだまだ元気な力を持っておられます。そういう人たちが国民の大多数を占める状況になっているのだから、産業界でも考え方を变えて、新たなビジネス開発をやってもらいたいと思います。また、われわれもそのお手伝いをしてみたいと考えております。

さらに、福岡市は見た目は若い都市ですが、その中を見ますと、非常に高齢化した箇所が出てきています。若い若いといって高齢化対策をないがしろにしていると、そういう地域の高齢者の暮らしはきわめて難しいものになっていきます。

われわれは、福岡市が高齢者に優しい都市であって欲しい、街づくりのモデルにな





って欲しいという希望を抱いています。その点についてもさまざまなアドバイスをしていきたいと考えております。

これまでの活動としましては、テレビでご覧になられた方もいらっしゃると思いますが、ニコニコステップ運動を用いた健康づくりプログラム事業や、各国から高齢者施設の視察に来られた方のコーディネートを行っているほか、健康産業についての新たな実験を行おうとしています。さらに来年は国際シンポジウムも企画したいと考えており

ます。

これらの事業を遂行しながら、高齢者が今まで以上にアクティブで、生涯現役の社会人であるための支援をしていきたいと考えています。

もう高齢化に関するモデルは前にはいません。われわれ自身が歩んだ道が、後に続く人々にとってのモデルとなるのです。

本日は、みなさんがパイオニアであるということをしっかり認識していただく機会になればと思います。今日一日お互いの思いを語り合いながら、次の一步を考えていきたいと思います。